

## 仙台市食育推進計画（第3期）骨子案

<コンセプト> **未来へつなげる食育**

私たちの未来、そして次世代の子どもたちの未来をよりよいものにしていくため、食育を推進していきます。

<基本目標> **市民一人ひとりが、食について多様な視点で関心を持ちながら、毎日の食事を味わい楽しむことを通して、よりよい未来を次世代へつなぎます。**

◇食育推進はSDGsの多くの目標に貢献するとされ、「SDGsアクションプラン2023」にも「誰もが自然に健康になれる食環境づくりを展開」することが重点事項の一つに位置付けられています。



## 現計画（第2期）

## 課題（最終評価）

## ■ 食習慣と健康の視点

朝食を毎日食べる習慣の定着  
栄養バランスのとれた食事の実践  
肥満対策および、若い世代のやせ対策

## ■ 食の安全性と食品に対する信頼性確保の視点

食の安全性に対するリテラシー向上

## ■ 食の由来・文化の視点

和食や郷土料理等の良さ・大切さを認識し、  
次世代へ伝承していくこと

## ■ 生産・流通・消費の視点

地元農水産物の消費拡大  
食品ロス削減

## &lt;推進体制の視点・新たな視点&gt;

仙台市全体としての一体的な食育推進の強化  
デジタル化やSDGsに対応した食育推進

<計画期間> 平成23年度から令和5年度（13年間）

<推進体制> 仙台市食育推進会議等

## 推進の視点

**1 食を通した心身の健康づくりを推進します****2 食文化の理解を深め、次世代へ伝える取り組みを推進します****3 環境保全・脱炭素を意識した食生活を推進します**

## &lt;推進方針&gt;

- ◆多様なライフスタイルへ対応した、生涯にわたる切れ目のない食育の推進
- ◆食育推進ロゴマークの活用をはじめとする、関係機関・関係部局におけるより一体的な取り組み
- ◆「新たな日常」やデジタル化など、時代に対応した食育の推進

<計画期間> 令和6年度から令和12年度（7年間）

<推進体制> 「仙台市食育推進会議」を構成する各主体を中心とした関係機関と市の関係部局が、それぞれの特徴を生かし、互いに連携・協力しながら、主体的・積極的に計画を推進します。

## 仙台市食育推進計画（第3期）

## 目指す姿（アウトカム）

（具体的な姿）

## ■ 食を通した心身の健康づくりができる

朝食を毎日食べている

・生活リズムを整え、毎日朝食を食べる  
・朝食が健全な食習慣の軸となることを理解する

栄養バランスのよい食事をしている

・1日3食、規則正しい食事をする  
・主食、主菜、副菜が揃った食事をする  
・適塩を意識した食事をする  
・適切な栄養量をとっている  
・栄養成分表示を確認し、活用する

健康な歯と口を維持し、食事ができている

・歯と口のケアについて学び、実践する  
・甘味食品・飲料の習慣的な飲食を控える  
・よく噛むことの大切さを知り、発達や口の機能に応じた食事を工夫する

安全な食生活について知識を持ち、自ら判断している

・食の安全安心の大切さがかかる  
・食中毒の危険性を知り、予防する  
・食品や食材を選ぶ際は、保存方法、アレルギー物質などの食品表示を確認する

## ■ 食文化を理解し、次世代へ伝えられる

地元食材や郷土料理を食事に活用している

・仙台市・宮城県で生産している食材を知り、家庭や給食で積極的に利用する  
・地元食材の生産者について関心を持つ  
・地元特産物や郷土料理について知り、生活に取り入れ次世代へつなげる

和食文化について理解し、食べる習慣がある

・伝統的な日本の食文化である稲作、米食について知る  
・和食の歴史や文化について知り、マナー等を身につける  
・日々の食事に和食を取り入れ、次世代へつなげる

## ■ 食行動を通して環境負荷を減らすことができる

地元食材や旬の食材を積極的に利用している

・地産地消・旬産旬消が生産、輸送、保存にかかるCO2削減につながることを知る  
・とれたての地元食材や旬の食材を積極的に利用する

食品ロスの削減に取り組んでいる

・食材は必要な分だけ購入する  
・料理は食べきれぬ量を作り、残さず食べる  
・フードドライブ等により未利用食品を有効活用する

環境負荷の小さい食品について知っている

・食品購入の際、環境にやさしい食品に表示されているエコラベルを確認する  
・農業・化学肥料の使用が少ない食品に関心を持つ